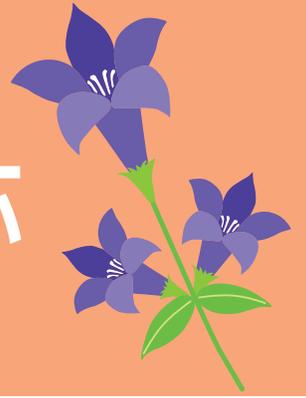


(公財) 山形県埋蔵文化財センター市町村巡回展

発掘された

# 山辺町の遺跡



令和4年10月13日(木)～11月9日(水) 山辺町ふるさと資料館  
ギャラリートーク:10月29日(土) 13:05～13:45

## 山辺町の発掘調査

山形県の中央部に位置する山辺町では、旧石器時代から近世にかけて76ヶ所の遺跡が確認されています。町の西側の白鷹丘陵部には5～6世紀の古墳が点在し、平野部には古代の条里遺跡や集落跡が分布し、中世の館跡も多く確認されています。今回県教育委員会により発掘された3遺跡を公開展示します。

## 山辺南条里遺跡

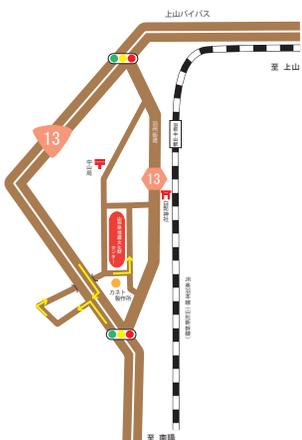
県営大規模ほ場整備事業に伴い昭和51・52年に発掘調査が行われ、水田の下から、古代の土地区画の跡である条里制遺構が確認されました。8世紀後半の畦畔(あぜ)や水路によって区画された水田の一部が見つかり、この地域では古くから水田開発が行われていたことが明らかとなりました。



展示遺跡



4次調査区



公益財団法人  
山形県埋蔵文化財センター  
〒999-3246  
山形県上山市中山字壁屋敷 5608  
TEL:023-672-5301 FAX:023-672-5586  
HP:<http://www.yamagatamaibun.or.jp>  
E-mail:[yac@yamagatamaibun.or.jp](mailto:yac@yamagatamaibun.or.jp)



しんたていせき  
新館遺跡

県道平塩・山辺線改良工事に伴い昭和 62 年に発掘調査が行われました。調査により 1 棟の<sup>たてあなじゅうきよあと</sup>堅穴住居跡や、6 棟の<sup>ほったてばしらたてものをあと</sup>掘立柱建物跡が検出され、平安時代と鎌倉時代の 2 時期にわたる集落跡が確認されました。また縄文時代から中世の幅広い時代にわたる土器や石器などが出土しました。



調査区全景



堅穴住居跡

ねぎわまとばいせき  
根際的場遺跡

農村自然環境整備事業の農道建設に伴い平成 14 年に発掘調査が行われました。調査により縄文時代中期末葉（約 4,000 年前）の遺構や遺物が確認されました。4 棟の<sup>たてあなじゅうきよあと</sup>堅穴住居跡には、石で組まれた<sup>ふくしきろ</sup>複式炉を持つものや、<sup>まいせつ</sup>埋設土器を伴うものもありました。25 基<sup>どころ</sup>確認された土坑の中には、袋状につくられたものもあり、食料を蓄える<sup>ちょぞうけつ</sup>貯蔵穴と思われ、当時の人々の生活の様子が伺えます。



堅穴住居跡



埋設土器を伴う複式炉